

国立大学法人豊橋技術科学大学次期学長候補者の決定について

2024年9月17日

国立大学法人豊橋技術科学大学
学長選考・監察会議



国立大学法人豊橋技術科学大学学長選考・監察は、現学長が2024年5月21日で欠員となったことに伴い、次期学長候補者を決定したので、国立大学法人豊橋技術科学大学学長選考等規程第20条の規定により、下記のとおり公表する。

記

1. 次期学長候補者

氏名 若原昭浩 (わかはら あきひろ)
現職 国立大学法人豊橋技術科学大学 理事・副学長 (学長代行)

2. 任期 2025 (令和7) 年1月1日～2026 (令和8) 年3月31日

3. 選考理由

学長選考・監察会議は、「国立大学法人豊橋技術科学大学学長選考基準」に基づき、学長候補適任者の推薦について意見を聴取し、学長候補適任者の候補者を選出した。選出した候補者に対し学長候補者となる意思の確認を行ったのち、当該意思のあった者から提出された実績調書を確認のうえ、面談を行い、学長候補適任者を選出した。その後、学長候補適任者の所信を表明する場を設け、学長候補適任者としての所信を改めて明確にさせていただいた上で、慎重に審議した。

若原昭浩氏は、現在、学長代行を務められており、本学の置かれている現状・課題等を的確に分析して、本学の教育・研究・社会貢献・国際連携・管理運営に関し更なる発展に向け、熱意を持って着実に取り組むことを表明している。加えて、本法人の学長選考基準に掲げる4つの資質・能力を十分に備えていることを確認した。以上のことを踏まえ検討した結果、本法人の学長選考・監察会議は、若原昭浩氏を次期学長候補者として決定した。

大学を取り巻く環境が非常に厳しい状況の中、同氏には、優れたマネジメント能力と力強いリーダーシップを発揮し、第4期中期目標・計画の達成に尽力いただき、社会のニーズに応えられる魅力ある大学として本学を発展させていくことを期待する。

4. 選考の過程

別紙「国立大学法人豊橋技術科学大学学長選考の過程」のとおり

5. 次期学長候補者の主な略歴

別紙「次期学長候補者の略歴書」のとおり

6. 学長選考基準

別紙「国立大学法人豊橋技術科学大学学長選考基準」のとおり

以上

国立大学法人豊橋技術科学大学学長候補者選考の過程

日 程	事 項
2024年7月12日（金）	意見聴取の公示
2024年7月12日（金） ～2024年7月19日（金） ※土日祝日を除く	意見聴取の期日前提出
2024年7月22日（月）	意見聴取の実施
2024年7月22日（月）	【学長選考・監察会議】 学長候補適任者の候補者を選出
2024年7月22日（月） ～2024年8月7日（水）	学長候補適任者の候補者への学長候補者となる意思の確認
2024年8月8日（木）	【学長選考・監察会議】 学長候補適任者の候補者との面談を実施し、学長候補適任者を選出
2024年9月3日（火）	意向調査の公示
2024年9月3日（火） ～2024年9月13日（金） ※土日祝日を除く	意向調査の期日前提票
2024年9月12日（木）	所信表明の実施
2024年9月17日（火）	意向調査の実施 （開票結果） ・意向調査対象者 251 名 ・投票総数 210 票 ・有効投票数 209 票 ・無効投票数 1 票 ・得票数 若原 昭浩 117 票 井上 光輝 82 票 小出 康夫 10 票
2024年9月17日（火）	【学長選考・監察会議】 次期学長候補者の決定
2024年9月17日（火）	次期学長候補者決定について公表

次期学長候補者の略歴書			
ふりがな 氏 名	わかほら あきひろ 若原 昭浩	性 別	男
生年月日 年 齢	1962（昭和37）年 6月 2日生 満62歳		
最終学歴	1990（平成2）年 3月 豊橋技術科学大学大学院工学研究科博士後期課程修了		
学 位	1990（平成2）年 3月 工学博士（豊橋技術科学大学）		
現 職 名	豊橋技術科学大学 理事・副学長（学長代行）		
主要経歴	<p>H2年4月 京都大学工学部助手</p> <p>H9年8月 豊橋技術科学大学工学部助教授 （H11年4月～H13年3月：技術開発センター助教授）</p> <p>H17年4月 豊橋技術科学大学工学部教授（～R4年3月）</p> <p>H22年4月 豊橋技術科学大学学長補佐（～H26年3月）</p> <p>H26年4月 豊橋技術科学大学電気・電子情報工学系長（～H28年3月）</p> <p>H28年4月 豊橋技術科学大学学長特別補佐（～H30年3月）</p> <p>H30年4月 豊橋技術科学大学副学長（～R4年3月）</p> <p>R4年4月 豊橋技術科学大学理事・副学長（～現在）</p> <p>R6年5月 豊橋技術科学大学学長代行（～現在）</p>		
管理運営 に関する 実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ H17年： 高圧ガス保安部会設置を働きかけ、全学の高圧ガス保安体制を整備。また、高圧ガス安全講習会を構築し定着させた。 ・ H20年： 安全衛生ハンドブック編集部会長として、安全衛生ハンドブックを編集 ・ H21年～22年：学部・大学院再編の検討部会員として再編案の策定に参画 ・ H22年： 研究基盤センター長として、技術開発センター、分析計測センター、工作センターの3センター統合と統合後のセンター運営を担当 ・ H22年～現在：高専連携室長、高専連携推進センター長、高専連携地方創生機構長として、高専連携活動の強化に従事 ・ H23年： 廃棄物対策専門部会長として、廃棄物処理の指針を大幅改定 ・ H24年～29年：国立大学改革強化推進事業（三機関が連携・協働した教育改革）の教育改革推進機構に参画（カリキュラム検討部会、高専教育高度化推進部会：豊橋側代表、マレニア拠点形成：実務担当） ・ H26年～28年：電気・電子情報工学系長として系の将来構想策定 ・ H29年～R3年：高専連携教育プログラム企画WG主査、連携教育プログラムの立ち上げ後は推進室長としてプログラムを推進 ・ H31年～R3年：長岡技術科学大学と共同による経営改革促進事業に推進本部副本部長として参画 ・ R4年度～：豊橋技術科学大学理事として、将来ビジョンの策定、科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業の申請、採択後はTUT-DCフェローシップ推進室長として事業立ち上げ、エレクトロクス先端融合研究所の次世代半導体・センサ科学研究所への改組・機能拡充を指揮、SDGs推進本部の立ち上げ、地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業の申請計画立案を指揮し、事業採択に繋げる 		

<p>教育研究 に関する 実績</p>	<p>◎教育実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H14年～22年度：21世紀COE推進室およびg-COE推進室に幹事として博士後期課程生の教育研究高度化プログラムの企画推進を担当 ・ H22～28年度：テラメイト・バトン教育推進室副室長として博士人材育成プログラムの企画・運営を推進 ・ H26～27年度：リディング大学院推進機構副機構長として、カリキュラムの企画・策定を担当 ・ R4年度：高等専門学校との連携に基づく技術者教育の体系を再構築するために、高専連携推進センターを機能拡張し高専連携地方創生機構に拡充改組した。 ・ R4年4月：高等専門学校と連携して技術の実装力・創造力の高い人材養成を全国展開するために、鹿児島高専との協定により、鹿児島サテライトを設立し、現地での共同研究のスタートにつなげる実績を上げた。 ・ 主要著書 <ul style="list-style-type: none"> ・ Rare-Earth Doped III-Nitrides for Optoelectronic and Spintronic Applications (Topics in Applied Physics) (共著) Springer 2014 ISBN:9401784728 ・ 固体電子物性 (新インターニューロニクス) (編著) オーム社 2009 ISBN:4274207811 ・ 結晶成長の基礎 (共著) 培風館 1997 ISBN:4563036188 <p>◎研究実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学術論文 227編 ・ 講演・口頭発表等 848件 ・ 特許 5件 (出願20件) ・ 書籍 4件 ・ 学会等受賞歴 <ul style="list-style-type: none"> 応用物理学会論文賞 (JJAP論文賞) (H19年9月) 日本学術振興会平成28年度「科研費」審査委員表彰 (H28年10月) ・ 競争的資金等の研究課題 32件 <ul style="list-style-type: none"> H25～28年 Siチップにモリブデン搭載可能なIII-V-N/Siレザ實現の基盤研究 H26～29年 実践的教育を可能とする教育スキル・キャリアの構築とICTによる共有 H27～30年 高専教育への青色LED製作実験の導入 H28～30年 窒化ガリウム中ラマンナイトによる高性能な単一光子源・量子ビットの実現 H30年～R元年 集積化マイクロLEDアレイ技術の高解像度プロジェクトへの展開 <p>他</p>
<p>社会貢献 に関する 実績</p>	<p>◎学会役員，国内外学会実行委員長など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 応用物理学会： <ul style="list-style-type: none"> 東海支部諮問委員 (R6年～) 理事 (支部長) (R3年4月～5年3月) 東海支部幹事 (H17年～R5年度) 代議員 (R3年4月～R5年3月，H15年4月～H28年3月) ・ 電子材料シンポジウム総務，論文委員 (H3～R2年)，実行委員長 (R3～R4年) ・ Japan-Korea Joint Workshop on Advanced Semiconductor Processes and Equipments, Proceedings編集長 (H12～H20年，9回) ・ 2nd Workshop on Impurity Baser Electroluminescent Devices and Materials, Co-chair, 特集号編集委員長 (H16年) ・ ISPlasma組織委員会委員 (H21～R5年) ・ ISPlasma2021運営委員長 (コロナのためキャンセルを決断) ・ Int. Symp. on Compound Semiconductors (ISCS2013) プログラム委員会 結晶成長部門長 (H24～25年) <p>他，国際会議運営委員，実行委員，論文委員，編集委員など</p>

◎学外組織兼務

- ・蒲郡技術科学振興会顧問（R6年度～）
- ・一般社団法人技科大テックブリッジ理事（R5年10月～）
- ・公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構評議員（R5年度～）
- ・東三河スタートアップ推進協議会副議長（R5年度～）
- ・公益財団法人カシオ科学振興財選考委員（R4年度～）
- ・公益財団法人名古屋産業科学研究所理事（R4年度～）
- ・国立高等専門学校機構の評価等に関する有識者会合（R3年度～）
- ・鈴鹿工業高等専門学校運営諮問会議委員（H30年度～）
- ・沼津工業高等専門学校運営諮問会議委員（H29年度～）
- ・高知工業高等専門学校参与会議長（H22年度～）
- ・国立高等専門学校機構教員顕彰選考委員会委員（H28年度～）
- ・とよたイノベーション推進協議会委員（H29年度～）
- ・科学技術交流財団 重点プログラム研究会企画副査（重点研究計画の企画立案担当）（H20～22年度）⇒第1期重点プログラムに採択（主査：田中三郎）
- ・科学技術交流財団 あいちシンクロtron光センター 成果公開無償利用事業課題審査委員会委員（H26～H30年度）
- ・愛知県 地域相互利用システム検討会議 委員（H20～H22年度）
- ・科学技術交流財団 医・工連携ハイエクス研究会座長（H15～H17年度）

◎企画・講師等

- ・電子ジャーナル713回セミナー（H23年3月）
- ・窒化物半導体デバイスプロセス講習会企画，主催，実施（H22～H26年度）
- ・技術者養成研修（技術開発センター）企画・実施（H21年10月）
- ・リフレッシュ理科教室（応用物理学会東海支部）（H17年度～）
- ・集積回路講習会（H10年～R元年度）

以上

国立大学法人豊橋技術科学大学学長選考基準

【資質・能力】

国立大学法人豊橋技術科学大学(以下「本法人」という。))における大学憲章を尊重し、その達成・実現に対する強い意欲とともに、以下の資質・能力を有すること。

1. 人格が高潔で、学識が優れ、かつ、本法人における教育研究活動を適切かつ効果的に運営することができる能力を有する者
2. 本法人の自主性、自律性を尊重し、社会に対して本学の存在感を示すことができる者
3. 本法人の将来を見通し、リーダーシップを発揮できる者
4. 管理運営、教育研究、社会貢献及び国際化に関する見識を有する者

別紙「大学憲章」

【学長選考に係る手続・方法】

国立大学法人豊橋技術科学大学学長選考・監察会議は、国立大学法人豊橋技術科学大学学長選考等規程及び国立大学法人豊橋技術科学大学学長選考等規程実施細則に基づき、以下の手続・方法により学長候補者を選考する。

5. 学長候補適任者の推薦（選考等規程第8条）
学長候補適任者の選出にあたっては学長選考・監察会議構成員を除く、学長、副学長及び本学専任の教授（意見聴取有資格者）から、事前に学長候補適任者の推薦について、意見を聴取するものとする。
6. 学長候補適任者の選出（選考等規程第10条）
意見聴取を参考に、3名以内の学長候補適任者を選出するものとする。
7. 所信（選考等規程第11条）
学長選考・監察会議は、学長候補適任者に所信の提出を求めるとともに、所信表明の場を設けるものとする。
8. 意向調査（選考等規程第12条及び第13条）
 - (1) 意向調査の方法は、学長候補適任者名簿に記載された者のうちから、1回の単記無記名投票により行うものとする。
 - (2) 意向調査は、不在者投票を認めるものとする。ただし、代理投票は認めない。
9. 学長候補者の決定（選考等規程第14条）
 - (1) 学長選考・監察会議は、意向調査の結果を参考に、学長候補者を決定するものとする。
 - (2) 学長候補者の決定にあたっては、当該者の意思を確認するものとする。

豊橋技術科学大学憲章

豊橋技術科学大学は、昭和 51 年に、実践的・創造的能力を備えた指導的技術者の養成という社会的ニーズに応えるため、実践的な技術の開発を主眼とした教育研究を行う大学院に重点を置いた工学系の大学として、高等専門学校卒業生を主たる対象とする新構想のもとに設立されました。

この構想を実現するために技術科学の教育・研究を行い、これまでに多くの技術者・研究者を輩出するとともに、研究、技術開発、産学連携等を通じて社会に貢献してきました。

これらの実績と強み・特色を活かし、更なる発展を期し、豊橋技術科学大学全構成員の道標として、理念と目標を憲章として宣言します。

基本理念

豊橋技術科学大学は、技術を支える科学の探究によって新たな技術を開発する学問、技術科学の教育・研究を使命とします。この使命のもと、主に高等専門学校卒業生及び高等学校卒業生等を入学者として受入れ、大学院に重点を置き、実践的、創造的かつ指導的技術者・研究者を育成するとともに、次代を切り拓く技術科学の研究を行います。さらに、社会的多様性を尊重し、地域社会との連携を強化します。これらを通じて、世界に開かれたトップクラスの工科系大学を目指します。

【教育の目標】

技術科学の教育を通じて、豊かな人間性、グローバルな感性及び自然と共生する心を併せ持つ先導的な実践的・創造的技術者・研究者を育成します。

【研究の目標】

技術科学を究め、産業・社会にイノベーションをもたらす先端的研究を進めます。

【国際化の目標】

世界に開かれた大学として、海外教育研究拠点の活用や交流協定校等との連携により、学生・教職員による国際交流を推進するとともに、グローバルキャンパスの実現を図り、技術科学の国際拠点を形成します。

【社会貢献、連携の目標】

技術科学の成果を広く活用して、種々の組織との連携のもと、社会が抱える課題の解決に努めるとともに、地域社会の活性化に貢献します。

【大学運営の目標】

学長のリーダーシップとガバナンス機能の強化により、大学の資源を最大限に活かすとともに、大学を取り巻く状況や社会的要請の変化に迅速に対応します。

【役員、教職員の目標】

相互に信頼・連携・協力し、教育、研究、社会貢献、組織運営等の業務を進めます。

【健康・安全管理の目標】

心身の健康を増進するとともに、キャンパスの安全対策と危機管理体制を強化します。

【環境配慮の目標】

自然と人とが調和したキャンパスを創るとともに、省エネルギー・省資源化を進めます。

【情報公開・情報発信の目標】

積極的に情報公開、情報発信を行い、社会への説明責任を果たします。

【法令遵守等の目標】

法令を遵守するとともに、研究倫理、行動規範を遵守します。

平成 27 年 3 月 23 日